

I 専門分野の成長戦略

農業分野

農業分野の取り組みの概要

① 産業振興計画のこれまでの取り組みによる成果と課題

高齢化の進行等により農家戸数が減少する中、生産性の向上や販路の開拓、担い手の確保などに取り組んできたことにより、徐々にその成果が現れ、令和4年の農業産出額等は1,081億円と、産業振興計画がスタートした平成20年から5.4%増加しています。

具体的な取り組みとして、生産面では、オランダから学んだ環境制御技術を本県の生産条件に適合させた「次世代型こうち新施設園芸システム」にIoTやAI技術を組み合わせ、更なる増収、省力化等を目指す「Next次世代型こうち新施設園芸システム」の開発と普及を進めています。

中山間地域では、集落営農組織等の県内への拡大や農村型地域運営組織（農村RMO）の形成推進により、中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくりを進めています。

流通・販売面では、卸売市場等とのさらなる関係強化による営業力の強化や県産青果物のトップセールス等、特に関西圏を中心に県産農畜産物の販売拡大に取り組んでいます。

さらに、担い手の確保では、産地提案型の担い手確保対策の県内への普及等の取り組みにより、新規就農者の確保につなげるとともに、労働力の確保に向けて、農福連携やJA無料職業紹介所と連携した取り組み等を進めています。

この他、基盤整備の推進と農地の確保の取り組みでは、地域計画の策定支援等により新規就農や規模拡大する担い手への農地の集積・集約等に取り組んでいます。

一方で、生産資材価格の高騰等により、農業者の生産意欲の減退や農家経営の圧迫が生じていることから、さらなる生産性の向上や持続可能な生産方式への転換が必要です。また、農業生産や生産基盤の維持・保全活動により中山間地域の農業・農村を守るため、多様な農業人材の確保が必要です。

② 第5期計画の取り組み

地域で暮らし稼げる農業を目指し、若者にとって魅力ある産業として発展できるよう、次の5つを戦略の柱として、引き続き取り組みます。

柱1 生産力の向上と持続可能な農業による産地の強化

IoTクラウド「SAWACHI」を核としたIoTプロジェクトを推進するとともに、クラウドに蓄積されるデータを活用したデータ駆動型営農支援の強化により、農業のデジタル化を推進し、生産性と収益性の向上に取り組みます。

また、「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業の推進や省エネ技術の導入等により、農業のグリーン化を推進し、持続可能な農業への転換に取り組めます。

柱2 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築

集落営農組織や農地の受け皿となる法人、農村RMO等、多様な農業人材の確保・育成により、中山間地域に適した品目の生産振興や農業の多面的機能の保持に取り組めます。

柱3 流通・販売の支援強化

関西圏で成果が出てきている卸売市場等との連携による販売強化を横展開し、大都市圏での量販店フェアの強化等により県産農畜産物のさらなる販売額向上に取り組めます。また、青果物・ユズ果汁・花きの輸出の強化等、国外市場へのさらなる販路拡大にも取り組めます。

柱4 多様な担い手の確保・育成

産地提案型担い手確保対策を一層強化するとともに、新たに若者・女性への就農支援の強化を位置づけ、若者・女性向け農業体験・研修の強化や働きやすい環境整備への支援等により、若年層の担い手確保に取り組めます。

柱5 農業全体をけん引する基盤整備の推進と優良農地の確保

令和6年度までに県内259地区で地域計画を策定し、10年後の農地を誰に引き継ぎ、地域の農業をどのように維持・発展させていくのかを明確化します。また、地域計画をもとに、基盤整備により優良農地を確保し、担い手への農地集積に取り組めます。